

出向く宮農レポート

～除草について～



北部宮農センター尾張旭地区担当
伊藤日菜

尾張旭農学校生で新規就農を目指す胡陳香さんの新しい土地に出向き、秋冬野菜作付け前の圃場整備および土壌改良について指導を行いました。1反ほどの耕作放棄地は背の高さ以上に雑草や木々が生い茂り、土地の改良は一筋縄ではいきません。ですが彼女は心身ともにとってもパワフルで、自前の刈払い機を使って数日で草を刈って見通し良く管理しました。

作業中の写真



草刈り作業中、繁茂している雑草を確認すると笹が多く生えていることが分かり、その場の土を掘ってみると地中に地下茎が張り巡っておりまして。このままロータリーを入れてしまうと刃に絡まってしまふことや、地中に残った地下茎から再生し植え付ける作物の生育に影響することが懸念されました。9月中旬にキャベツプラグ苗128穴を6枚植える計画をしていたので、急ぎで耕起し、同時進行で土壌の性質および栄養素の過

不足を知るため、土壌診断を実施しました。それ以外の場所は、農耕地用の非選択性除草剤であるラウンドアップマックスロードを9月から11月の笹の生育が止まる時期に50倍液で葉に丁寧に散布することを指導しました。2、3か月で地下茎を枯らすことができます。



ラウンドアップ
マックスロード

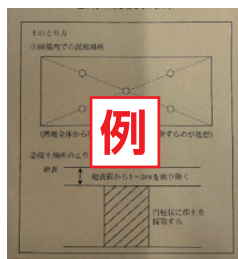
ラウンドアップマックスロードは農耕地の雑草の耕起前防除として有効な除草剤です。耕起前に雑草が生えてしまっていてそのままロータリーで土壌にすき込む場合、耕運機の馬力が小さいとすき込みが甘く雑草が復活しやすくなります。そのため、耕起前に非選択性除草剤で雑草を枯らすというひと手間を加えることで、作付後の除草管理が楽になります。

笹以外の代表的な地下茎の植物として挙げられるのはタンポポやヨモギ、ススキ、スギナ、クローバー、ドクダミなどで、同じように対応の倍率で葉に散布すると地下茎を枯らすことができます。

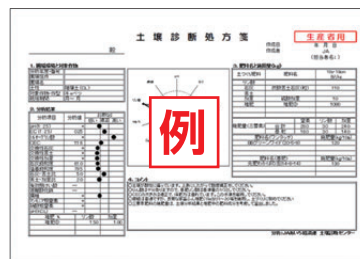
ラウンドアップマックスロードは各グリーンセンターで販売しております。

除草および耕起を終えた圃場に作付けたキャベツは、産直センターや学校給食センターへ出荷を目標に栽培していきます。今後、様々な栽培の知識と、技術を農学校を通じて学んでいき、新規就農を目指します。

※土壌診断について



土の採取方法



土壌診断処方箋

量として350gのよく乾いた土が必要です。
検体を分析センターへ送り、結果が出るまでに約2、3週間ほどかかります。
1検体500円(税抜)で診断できます。 ※令和6年9月現在
※詳しくは宮農センターへお問い合わせください。